

「小児の近視」予防に注力…スマホやゲーム時間の短縮呼びかけ



横浜市青葉区の緑豊かな住宅地にある「順伸（じゅんしん）クリニック小児科・眼科」は、1992年開業以来、地域の小児医療の窓口としての実績を持つ診療所。今年春からこの眼科医長として診療に当たるのが入戸野晋医師だ。

「子供の頃の夢は小学校の教師でした」と語るように、穏やかな物腰

順伸クリニック小児科・眼科 眼科医長

入戸野 晋さん(38)

が印象的な眼科医。小児科主体のクリニックの眼科ということもあり、入戸野医師の外来も現在は小児の患者が8割を占める。そこでいま、力を入れるのが「小児の近視」の予防への取り組み。

「この30年間で、裸眼の視力が0.3以下の子供の割合は3倍増です。原因はパソコンやスマホ、ゲームなどの環境要因。国の重い腰が上がるのを待っている余裕はないので、われわれ眼科医が声を上げていくしかない…」

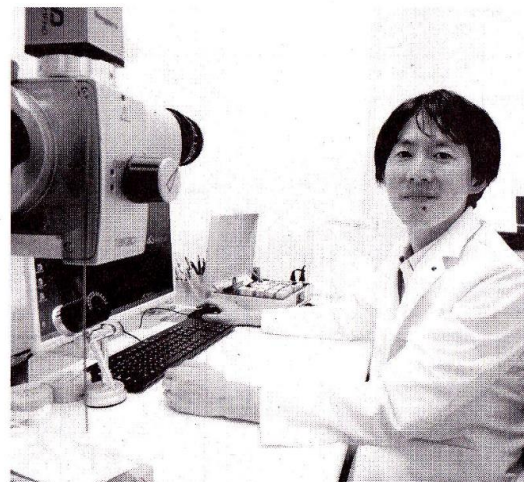
小児患者や保護者に向けて、スマホやゲームに接する時間の短縮を呼

びかけるほか、今後は学校などに出向いての指導にも前向きな姿勢を見せる。

クリニックには、自分の症状を的確に説明できない乳幼児や低学年の児童のために、近視や乱視などの屈折度数を自動的に測定する機器を導入するなど、「子供の目」を守る眼科医として、早くも存在感を増している。

同院の名称には「小児科」とはあえるが、眼科診療の対象は「おとな」も含まれる。

「もし小学校の教師になっていたら、1人1人が理解できるように教



える先生になりたかった。でも、同じことは医師にも求められる。患者の年齢や知識に関係なく、治療内容がきちんと理解できるような説明を心がけているし、患者さんとそんな

関係が築けることが、今とても楽しい」

その言葉には、患者目線の思いがあふれていた。

(長田昭二)

にっとの・すずむ
1981年、東京都目黒区生まれ。2006年、昭和大学医学部卒業。同大学院初期臨床研修を経て同大医学部眼科学講座入局。同大学院修了。同大藤が丘リハビリテーション病院眼科助教。にっとのクリニック（東京・目黒区）院長を経て19年から現職（現在も火曜と金曜は同クリニックで外来を担当）。日本眼科学会認定眼科専門医、視覚障害者用補装具適合判定医他。医学博士。趣味は「暗渠めぐりや古看板を探しながらの散歩」。